

# 福岡

## 地域福祉活動職員の

# ま な こ

## 地域福祉活動推進のために

No. 54 2005年 1月発行 福岡県地域福祉活動職員連絡会

### 紆余曲折の末に

平成十四年度途中の、佐々木真司（築城町）会長の突然の退職辞任により、会長職空位、事業の停滞と混迷を深め、さらには追い打ちをかけるように、福岡県社協からの「地職連事務は今後地職連で独自に」という申し入れを、議論の余地なく受けざるを得ない状況下で、地職連組織そのものの考え方、また組織の必要不の賛否というところまで、各ブロック持ち帰りの協議事項とし、臨時総会でも様々な意見が飛び交う中、ようやく地職連を存続していくということで、一定の結論に達した訳ですが、その間、各市町村社協には大変なご迷惑をおかけ致しました。

結果、次のような役員体制・事務局にて平成十六年度地職連を進めておりますので、遅ればせながらご報告致します。

#### 【役員体制】

□会長（全県選出）

國武 竜一（浮羽町社会福祉協議会）

□副会長（ブロック選出）

早野 雅佳（春日市社会福祉協議会）

山本 政俊（大任町社会福祉協議会）

長野 誠（筑後市社会福祉協議会）

□幹事（ブロック選出）

肥田 剛（二丈町社会福祉協議会）

花岡 早織（桂川町社会福祉協議会）

原口 正恵（八女市社会福祉協議会）

能塚治一郎（小郡市社会福祉協議会）

池松 昌亀（大刀洗町社会福祉協議会）

□監事（ブロック選出）

吉田 美枝（新宮町社会福祉協議会）

三河 峰子（三潴町社会福祉協議会）

#### 【事務局】

浮羽町社会福祉協議会内

（所在地）

浮羽郡浮羽町大字朝田五八九一

※ なお、会長が選出されたブロックにて事務局を持つようにしております。

### 荒波への出帆

この新役員体制のもと、昨年十月二十六日（火）に太宰府市社協にて総会を開催し、今年度事業および予算の承認をいただきました。その内容は、すでにFAXにてお送りした通りですが、いざれにせよ、総会で承認された以上は、地職連の事業について、主体的かつ積極的な参画をお願いしたい限りです。

そもそも本連絡会は、我々の会であり、各市町村社協の会員がお客様のように、希薄な関わり方をする会ではなく、また役員に委任、依存する会でもありません。会員の各位には、他人事ではなく自分のことと自覚し、連絡会にどのように関わることか熟考いただきたいものです。

### 山積している今後の課題

過去の混乱については、実は前文のように簡単な説明で解釈できるようなもの

ではなかったのですが、一定の結論が出たからといって、未だ安堵できるような状況ではありません。

福岡県社協の申し入れのとおり、事務局体制については独自にということであり、現在浮羽町社協内にて、その業務を行っているのですが、地職連の専任職員がいるわけでもなく、会長が事務局兼務というような形を取らざるを得ません。

役員が選出された複数の社協での事務局分業も検討されましたが、現実として、整えていくためには、分散事務局と言うことは非常に困難、また今までは、容易にクローバープラザ内の会場予約・申請を福岡県社協を通じて行っていたものも、予約確認・申請すら地職連ということ。さらには、各社協に通知すべき連絡事項についても、郵送による通知が困難であり、FAXにて送信（総会時に了承済み）となるため、連絡周知の確実性も問われるところであり、事業実施以前に様々な問題を抱えたままであり、時折しも、市町村合併の動きの中にあり、今後は社協数も減少し、会員数も減少することは必至です。こういった周囲を取り巻く環境も逆風ですので、会員各位には、とにかくコツコツと意見を出し、コツコツと時間を作って、会への参画を深めて頂くことを、切に願います。

## 事業本格始動!

【研修事業報告】

### 『ホームレス支援活動現場研修』

—福岡市のホームレスの現状と—

支援ボランティア活動—

平成十六年十二月三日(金)、福岡市博多区美野島カトリック司牧センターおよび福岡市内各所を会場として、標記研修の参加を呼びかけたところ、十八名(参加は十七名・十二社協)の参加者が集まり、研修が実施されましたので報告します。



研修1

「福岡市のホームレスの現状と

支援ボランティア活動の状況」

### ◇講義概略

—コマ目の講義は、「福岡市のホームレスの現状と支援ボランティア活動の状況」と題して、齋藤輝二氏(東和大学教授 NPO法人すまいの会理事長より、今までのすまいの会が関わってきた具体的なケースの事例や、それぞれのケースではどのようなことが課題となっているのか、また総じて福岡市のホームレスの状況がどうなっているのかということの説明していただきました。

お話では、現在福岡市内に約千名のホームレスがいると推測され、年間約一〇〇名ずつ増加傾向にあること。その半数以上は福岡県内の方々であり、県内各市町村にも関係のない事ではないこと。また、ホームレスに至る経緯は一概には言えないが、もとは建設業(日雇い者)、サラリーマン、自営業などの方で、四〇才〜五〇才代が中心であること。事業の失敗、失業、多重債務、家族親族間のトラブル、家庭内暴力など様々な要因があるようだが、それらが複雑に絡んでいることもあるという。

すまいの会としては、ケースの住居を世話する(保証人になる、資金の貸付)ということをまずおこない、次に生活保護や年金の受給申請、就労などへつなげていく支援を関連しておこなっている。つまりは、まず居住地を確定することが

非常に重要な支援になり、居住地があるホームレスでなくなるという。ただし、このようなケースへの直接的な支援だけでなく、社会保障制度の欠点や福岡市の支援制度自体の見直しをしっかりおこなわなければ、根本的な解決には繋がっていかないことも示唆されました。



研修2

「社会保障制度と福岡市のホームレス支援」

—コマ目は、福岡市の行政の立場として福岡市保健福祉局総務部保護課より、友野定己氏と松村潔親氏の両名にお越しいただき、主に生活保護という側面からの説明をいただきました。

まずは、通常は生活保護の担当というのは、各区にある福祉事務所がそれぞれ担当するが、住所が固定されないホームレスの保護については、福岡市内全域の分を博多区の保護三課で一括して見ていること。

また、保護支給開始については、その多くが、入院した時点からの医療費をみる医療保護入院の場合で、家を持たないホームレスの生活を維持するための生活保護費は支給されない。

国はホームレス状態でも受給対象であるという解釈を示しているが、福岡市では、ホームレスと言うことだけで保護の対象という考えはなく、医療保護で入院し、その時点からアパート契約など住居確定の手続きを自分でおこない、入院段階でホームレスでなくなった方のみ、保護の拡大解釈で人居支援もできることを言われた。

しかし、ホームレスの中には、住民票を置けないような事情のある方(債権者から逃れるために所在を証せないなど)もおられ、そういった手続きができないこともあるので、ホームレスのまま生活保護を受けることができなければ、体を壊していよいよ動けないような、非常に悪い状態でないとは生活保護の網にはかからない仕組みのようでした。

また、福岡市としても、北九州市のよ

うに、支援施設を作らなければいけないという考えはあるようですが、そのための事務所を作るだけでも、地元住民説明会で猛反発を受け、現時点では支援施設を作れるような状況にないということでした。



支援活動現場に向かう準備

二コマの講義を終えて、現場に向くための準備(調理、仕分け、包装、分担)を、福岡おにぎりの会のボランティア皆さんと共にこないました。

支援活動の準備は、夜回りで配る「おにぎり」と「ゆで卵」「豚汁」の調理ですが、配布対象者は約五四〇名。今回は我々が参加したこともあり、厨房も準備室も人手が多く、とてもスムーズに作業が進

んだようです。(通常は一〇名未満で作業) これらの材料費は、会費、寄付金などで賄っていますが、支援の輪が少しずつ広がり、おにぎりを機械で作っている企業から、包装されたおにぎりも、毎回まとめて物品寄付を受け入れています。

ボランティアも、高校生からご年配の方まで年齢層も幅広く、多くは教会で話を聞いてきた信者や、キリスト教系の学校の学生、また、以前ホームレスだったという方や、牧師さんたちの講演を聞いた企業の方々など様々。

夜回りでは、おにぎりなどの食料の他、衣類、毛布、医薬品なども持って行くのですが、おにぎりの会のお便りも同封し、次回訪問日や炊き出しイベント、衣類パ



ンク、無料健康診断などのお知らせも併せておこなわれます。

夜回り活動開始前に、前回訪問時の問題点や、状況報告がなされ、留意点や周知事項の確認がなされます。



今回は、特に地職連の研修と言うことでお願いしておりましたし、調理準備がスムーズだったこともあり、ミーティングを延長、おにぎりの会理事長の梅崎浩二氏より、会の起りや活動理念、現在の課題など説明していただきました。その中で印象的だったことは、「私たちは、食べ物を与える行為が目的ではなく、夜回り活動を継続的に続けていくことで、当事者の方との信頼関係を築き、色々な事を話していただけるように、また話し

て頂いた問題について、何かお手伝いができるようにするために、この活動を続けています。」と言われた事です。

これは、私たちがそれぞれの市町村で日頃行う活動に、全く当てはまることだと頷きながら聴かせて頂きました。



訪問活動は、それぞれの地域に分かれて、約二時間ほどおこなわれました。訪問時の写真は、プライバシー等の問題で撮影できませんでしたが、それぞれにボランティアが会話されていることを聴いたり、直接手渡しして、一言二言会話を交わしたりして、おにぎりの会とホームレスの方の信頼関係を垣間見させて頂きました。参加者には、この体験で何かを感じ持ち帰って頂けたことでしょう。

『ホームレス支援活動現場研修』

に参加しての感想

志摩町社会福祉協議会 野中 保雄

今回、ホームレスについての研修に参加させていただきました。第一部では、ボランティア支援と公的の制度についての現場の話聞かせていただきました。「NPOすまいの会」の活動では、単に衣食住のみの支援にとどまらず、本人の金銭、住居、就業面まで多方面に渡る自立支援を行っておられ、型破りな方法の支援がとても驚きました。また、行政と民間の支援との連携も少しずつ実施されてあるとのこと、住居問題をはじめ、女性、暴力団関係、児童問題等多くの事柄に対しての支援には、大変効果的なことだと感じました。

研修に続き、おにぎり等の配布活動を行う「おにぎりの会」に炊き出しに参加させてもらいました。私は、大濠公園でお手伝いし、二十時から二時間以上かけ各テナなど一人一人声をかけ細かな活動が印象的でした。そこには独特の社会が確立されており、新しい発見があり、犬に襲われ、おにぎりをつまみ食いし、飽きない(?)現場研修でした。

志摩町ではホームレス問題は無いですが、今の社会保障制度や関与されるボランティア活動や方法など、参考になること多い研修でした。

配食実習に参加して思うこと

門司区社会福祉協議会 中根 英彰

「こんばんは。おにぎりの会です。」福岡天神で夜九時過ぎ、市民会館裏の公園に青いテントを張り生活をしているホームレスにそと声をかけていく。「NPO法人福岡おにぎりの会」の会員と共に夜回り・炊き出しの配食に同行した実習がなにもも勉強になりました。この活動はこの日から毎週金曜日三月まで続けられる。

梅崎理事長から「寒い中で暖かいものを提供することが目的ではなく、繰り返しお土産を持つていくことで、会を信頼してもらい、課題を教えてもらい、人間関係を作っていくことが目的。」続けて「現代は、リストラを生み出している社会の恩恵を受けて、私たちは生き残っている。そのような中で私はそういうことは埒外で被害を受けているかわいいうな人を助けて上げるといふ発想にはならない。」そして「問題の一つ一つに出会って、多くの人も出会って、具象から抽象となり心や頭に残っていくと思います。その時に問題の核心が判ってくる時がある。関わりというものが、もっと本格的に永続し、難しい解決できない問題があってもあきらめないで、続けていく原動力になる。具象を通して抽象をつかむまで続けてほしい。」の言葉は、私自身色々なことを学び気付かせていただきました。今回の研修を今後の社協活動に活かして行きたい。

ホームレス支援活動から社協が学ぶ事

桂川町社会福祉協議会 小林ベティ和恵

十二月三日、地域福祉活動職員連絡会としては初めての取り組みである「ホームレス支援活動現場研修」が美野島カトリック司牧センターで行なわれました。

NPO法人すまいの会理事長の齋藤輝二さんより、実施されて来られた居住を中心にした支援のお話がありました。親子連れ、妊婦、外国人とこれまでに関わられたケースは様々です。現在の日本の社会保障は家族が離散してしか受けられないことや、住宅を借りるための保証人やわずかな生活準備金さえあれば元の生活に戻れる事、ホームレス歴が短いほど就職意欲もあるし自立できる可能性もある事、家が見つかったりも日常的な支援や見守りが必要な方も多し事などを知りました。

この会では居住支援を中核として、医療支援、就労支援、保証人活動、日常生活支援の5つを活動の柱とされています。成功する例ばかりではないと言われています。2年間の間に四〇名以上の支援をされ、その内の半数の方は就職による自立をされているそうです。現在では市からの補助金もあり、その活動は必要とされています。

福岡市保健福祉局 総務部保護課の担当者のお話からも、取り組みの難しさを伺い知る事ができました。行政だけで行なうのではなく、様々なところと連携しながら支援を模索

されておられます。



夕方からはNPO法人福岡おにぎりの会のメンバーと一緒に、五〇〇食近い豚汁とおにぎり(企業からの寄付もありました)を作りました。カイロや心のこもったお便りを添えて、天神や大濠公園、舞鶴など八箇所ぐらいに別れ、ホームレスの方に手渡しして行きました。一九九六年以来毎月一回行っているそうです。又、十二月の越冬期には毎週一回活動されています。ジャンパーや毛布、薬なども持参して、一人ひとりの様子を聞いてまわる。継続して見守っている彼らの活動から、学ぶべき事は多くありました。

「自分の好きでやっている」「社協とは関係ない」と言うのは簡単です。でも、それで済ませて良いのでしょうか。雨の日も、暑い日も路上で生活する事を想像してみてもいい。この生活を選択しなければならなかった理由が、きつとあるはず。ホームレスになるのを事前に防ぐ為に、社協が地域でできる事はたくさんあるはず。です。